

【報告】

全国禁煙アドバイザー育成講習会

(2020年7月)第269回(京都大学・web開催)

【京都大学禁煙講習会（第269回 全国禁煙アドバイザー育成講習会 in 京都大学）】

◆開催日：2020年7月12日（日）・19日（日）・26日（日）

◆主催：日本禁煙科学会、禁煙マラソン

◆共催：京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻

◆後援：健康日本21推進全国連絡協議会

【主たるプログラム】

◇禁煙最新情報

「受動喫煙防止と加熱式タバコ・Covid19とタバコ」 日本禁煙科学会 高橋裕子

◇わかるとこんなに面白い！

疫学・統計の裏オモテ2020 京都大学 健康情報学 中山健夫

◇専門家に聞く

「新型コロナウイルスってナニモノ？」 京都大学ウイルス・再生医科学研究所 藤本真慈

◇第9回禁煙治療研究会特別企画「新型コロナと喫煙」再放映（自由視聴）

【開催報告】

◇受講者数

・受講者合計286名（7月12日 117名・7月19日 94名・7月26日 75名）

（受講者内訳：看護師84・保健師55・薬剤師51・医師40・学生7・管理栄養士6・その他）

◇講習内容

1. 禁煙最新情報

「受動喫煙防止と加熱式タバコ・Covid19とタバコ」

日本禁煙科学会 高橋裕子

加熱式タバコの健康影響については2019年7月26日に発表されたWHOのレポートに基づき、「加熱式タバコに有害物質は含まれるのか」「健康影響は軽減されるのか」「禁煙に役立つのか」の3つの疑問と回答が示された。

加熱式タバコでは一酸化炭素など一部の成分は減少しているが、ニコチンのようにほぼ同量含まれるものや、発がん物質のように紙巻きタバコより多量に含まれるものがあることが示された。受動喫煙も生じる。WHOのレポートでは「加熱式タバコはタバコであり、他のタバコ同様に規制されるべきである」「加熱式タバコのいくつかの毒性物質のレベルは従来の紙巻きタバコより低い、他は高い。低レベルのいくつかの毒物は必ずしも健康リスクの減少を意味するわけではない」と結論づけている。

電子タバコについては、低価格であること、世界では未成年者をはじめとして広く普及していることのほかに、米国で2019年には青少年の電子タバコユーザーに肺損傷が多発したことや、爆発事故の報告もあるなどの危険性が示された。

受動喫煙防止については、受動喫煙は医学的には完全に防止すべきものであり、三次喫煙など目のままで喫煙していない場合にも受動喫煙が生じることに注意喚起がなされた。

Covid19とタバコについては喫煙がCovid19の重症化に関与していることはほぼ確実である。

2. わかるとこんなに面白い！

疫学・統計の裏オモテ2020

京都大学大学院医学研究科健康情報学 中山健夫

多数の事例をあげて疫学や統計の落とし穴をわかりやすく説明いただいた。

「雨ごい3タ論法」では、「雨ごいは絶対に有効だ」つまり「折った、降った、効いた」の落とし穴について説明された。また「自分の体重を知っていますか」では、測定誤差とバイアスについて学んだ。

「胃がんの患者が共通して食べていたものは？」では、交絡因子について、また「村の80歳の男性10人のうち喫煙者は8人、つまり喫煙者は長生きするのでは？」では、分母を正しく捉えることの重要性が示された。

3. 専門家に聞く

「新型コロナウイルスってナニモノ？」

京都大学ウイルス・再生医科学研究所 藤本真慈

ウイルス研究専門家の立場から、ウイルスとバクテリアの違い、コロナウイルスはRNA一本鎖のウイルスであり、転写（複製）に際して変異が生じやすいこと、PCR検査の詳細と限界について説明があった。さらには今回のコロナウイルスは少なくとも3群に分類され、アジアで流行したコロナウイルスと欧米ではRNAなどのタイプが異なることも示された。

4. 第9回禁煙治療研究会特別企画「新型コロナと喫煙」

2020年6月28日にオンライン開講された第9回禁煙治療研究会特別企画「新型コロナと喫煙」の再放映。

まず、長谷川浩二・国立病院機構京都医療センター部長が、「新型コロナウイルス感染症における心血管合併症と禁煙推進の重要性」として。新型コロナウイルスは、肺炎はもちろん、血管の内皮細胞で炎症を起こして血栓症を招き、肺梗塞などの原因になることも分かってきたと説明した。さらに海外からの報告では、喫煙が新型コロナウイルス感染症の重症化を招くリスクになるとの様々な研究報告から示した。続いて、館野博喜・さいたま市立病院内科（呼吸器）科長が、「COPD（慢性閉塞（へいそく）性肺疾患）・タバコと新型コロナ」と題して、COPD患者は新型コロナウイルス感染症にかかりやすいとのデータはまだ示されないものの、感染すると重症化しやすいと考えられると述べた。最後に中山健夫・京都大学教授（健康情報学）は、「健康情報学から見た新型コロナウイルス感染症」として、不確かな情報しかないなかで、どのように対処法を決めていくのが良いのかについてシェアード・ディシジョン・メイキングの考え方を紹介した。

（報告者：高橋裕子）